

綾ユネスコエコパークセンター (2018年4月オープン)



綾ユネスコエコパークセンターのコンセプト

- しる** 綾ユネスコエコパークセンターの展示物を観て、聴いて、自然や生きもの、まちづくりに興味を見いだすきっかけがたくさんあります。
- しらべる** 綾ユネスコエコパークセンターを訪れた人が興味をもったことを、自分で訊いて、調べることができます。
- つなぐ** 綾ユネスコエコパークの自然や生きもの、地域の人、まちづくりがセンターの利用者を通じて世界につながる場となることを目指しています。

綾町 綾ユネスコ エコパーク推進室
 〒880-1303 宮崎県東諸県郡綾町大字南俣 442 番地 3 綾ユネスコエコパークセンター内
 TEL 0985-77-3482 (直通) ・ FAX 0985-77-5125 (直通) E-mail : ecopark@town.aya.lg.jp



自然と共生する
 照葉樹林都市

綾



綾町のマスコット「もりりん」

綾の照葉大吊橋
 長さ/250m 高さ/142m

ユネスコエコパーク



United Nations
 Educational, Scientific and
 Cultural Organization



Aya Biosphere Reserve
 • Biosphere Reserve since 2012
 • Man and the Biosphere Programme
 • ユネスコエコパーク



日本ユネスコ
 エコパーク
 ネットワーク
 Japanese
 Biosphere Reserves
 Network

宮崎県綾町

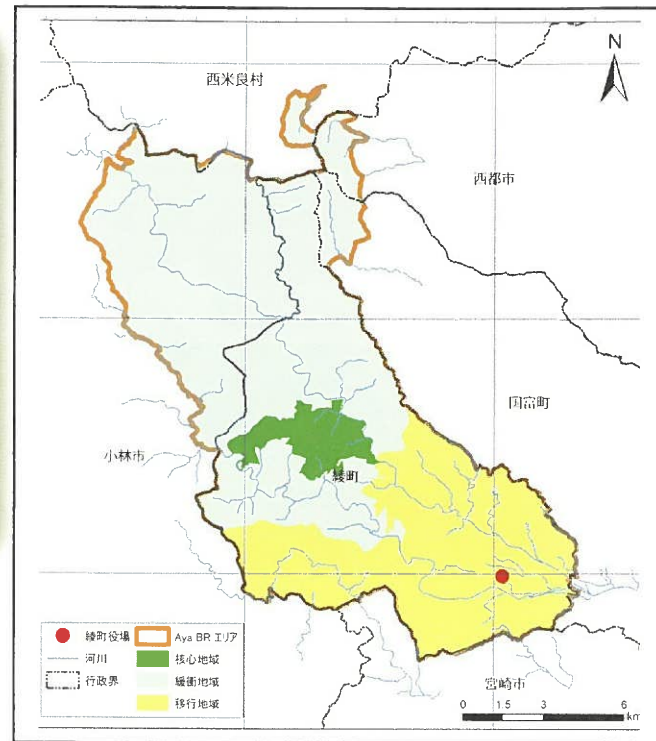
自然と共に生き、人と共に生きるまち 綾ユネスコエコパーク

綾町は2012年7月11日、国内では32年ぶり5カ所目の「ユネスコエコパーク」に登録されました。過去の4カ所は国主導で手続きされたもので、自治体が主導して登録に結びつけたのは、国内では綾町が初めてです。世界120カ国669地域(2018年6月現在)がユネスコエコパークに登録されています。

豊かな生態系や生物多様性を守り、自然の恵みを受けながら文化的・経済的に持続可能な発展を目指す地域のモデルとして、半世紀にわたるこれまでのまちの取り組みをさらに充実させていくことを目指します。

ユネスコエコパーク

“Biosphere Reserves = 生物圏保存地域”はユネスコ「人間と生物圏 (Man and Biosphere) 計画」の一事業として、1976 (昭和 51) 年に始まりました。より親しみを持ってもらうために、国内では2010 (平成 22) 年から「ユネスコエコパーク」という愛称で呼ばれています。綾町の照葉樹林の保護地域を核に宮崎県の2市2町1村にわたるエリアが指定されています。



ユネスコエコパーク 3つの機能

生物多様性の保全

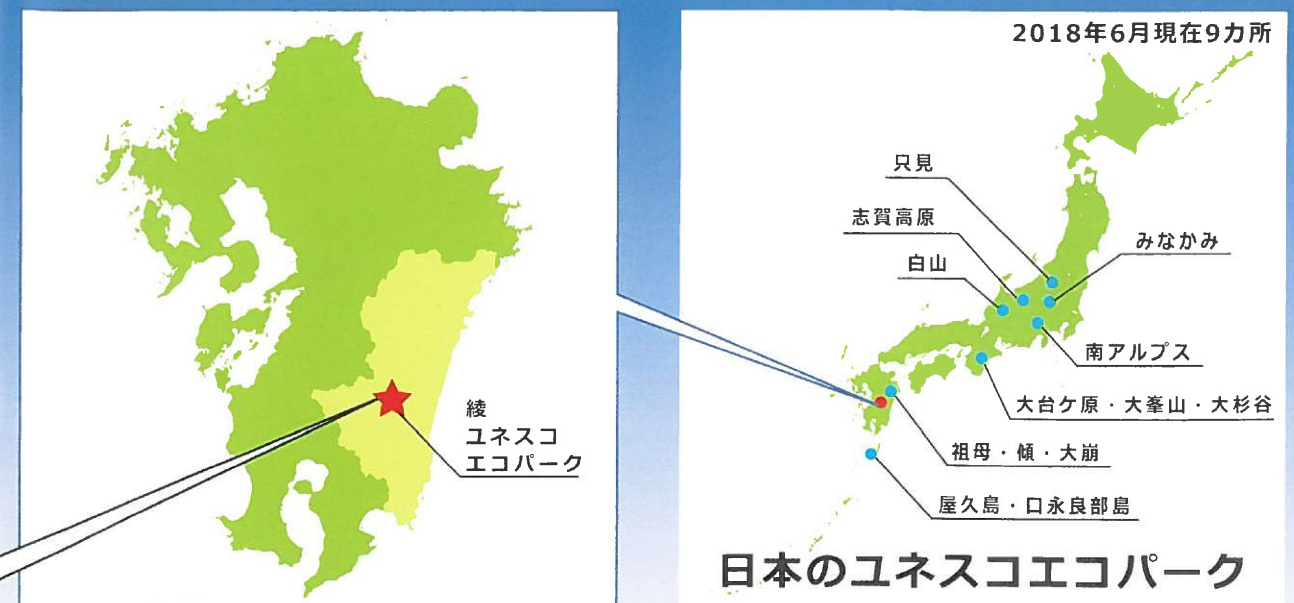
照葉樹林が育む豊かな自然環境と多様な生物の保護・保全に取り組みます

学術的研究支援

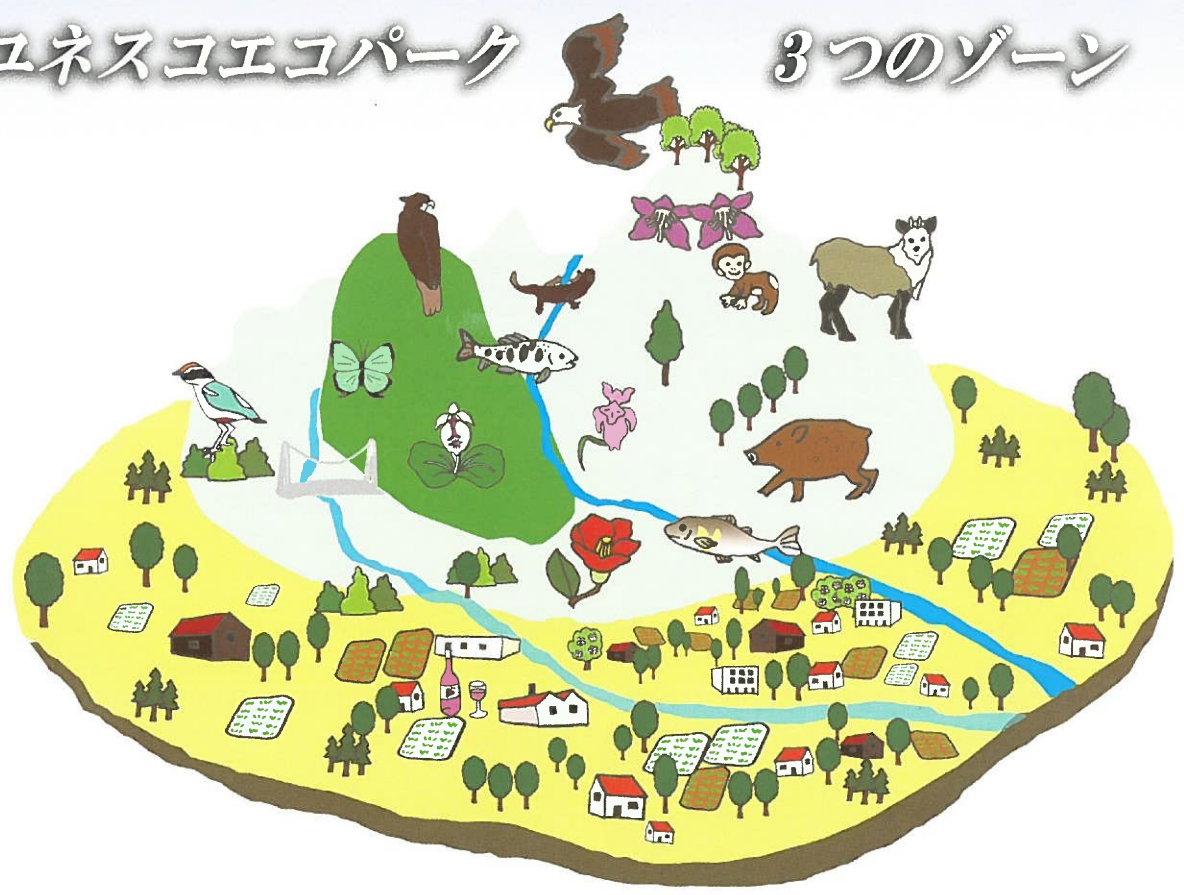
科学的な調査や研究、教育、研修の場を提供し、人材育成にも取り組みます

経済と社会の発展

自然環境と調和した持続可能な地域社会の発展を目指し、国内外のモデルとなる取り組みを行います



ユネスコエコパーク 3つのゾーン



- 核心地域 (コアエリア)** 世界の財産として高く評価される自然生態系を持つ地域。法律に基づいて厳重に守られる。
- 緩衝地域 (バッファゾーン)** 核心地域を保護する役割を持つ。自然環境に負担がかからない範囲で、環境教育や調査研究、レジャーなどに利用できる。綾ユネスコエコパークでは小林市、西都市、国富町、西米良村の一部が含まれる。
- 移行地域 (トランジションエリア)** 人々が自然と共生しながら持続的な暮らしを営む地域。さまざまな社会活動や経済活動ができる。世界自然遺産にはない、ユネスコエコパークの大きな特徴のひとつ。

綾ユネスコエコパークを支える豊かな自然環境

照葉樹林とは・・・

- 冬でも落葉しない広葉樹で、葉の表面のクチクラ層が発達した、光沢の強い深緑色の葉を持つため、このように呼ばれています。
- 日本ではシイ、カシ類がこれにあたり、アジア大陸東岸の西南日本、台湾、中国南部、ヒマラヤ南麓にかけて分布し、主に降水量の多い亜熱帯から暖温帯に分布する常緑広葉樹林です。
- 照葉樹林が成立する東アジア地域に、みそ、しょうゆ、納豆をはじめ、衣・食・住・神話・儀礼等、共通の文化(照葉樹林文化)が見られます。

綾の森の特徴

- 東アジアの照葉樹林の北限付近にあり、多くの日本固有の生き物が暮らしています。
- 残された日本最大級の照葉樹自然林を中心として、標高約1,100m以上のエリアには氷河期の名残りとしての夏緑広葉樹の自然林も残されており、西南日本の森林自然の縮図を見ることができます。



ナゴラン



ニホンカモシカ



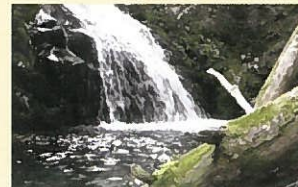
ベッコウサンショウウオ



ツクシアケボノツツジ



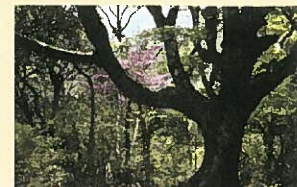
イチイガシ



溪流



緑豊かな照葉樹林



花の多いブナ林

綾町のこれまでの取り組み

I. 19xx-1975 II. 1976-1985 III. 1986-1995 VI. 1996-2005 V. 2006-20xx

拡大造林政策

- 1962~1970年 全国総合開発計画
- 1982年5月 九州中央山地国定公園綾地区の指定

国の動き

- 1953~1960年 綾川総合開発事業(綾南/綾北ダム建設)

宮崎県の動き

郷田寛町政 1966~1990年

- 1965年4月 自治公民館制度の開始
- 1973年 一坪菜園運動の普及
- 1975年3月 綾町の自然を守る条例の制定
- 1976年11月 青空市場の開設

前田穰町政 1990年~

- 1981年 家畜糞尿処理施設の完成
- 1984~1989年 あや市(毎週日曜日)の開催
- 1984年3月 綾の照葉大吊橋の完成
- 1985年3月 第1回照葉樹林文化を考えるシンポジウムの開催
- 1988年6月 自然生態系農業の推進に関する条例の制定
- 1989年6月 綾手づくりほんものセンター オープン
- 1989年7月 有機農業開発センター 設置(有機農産物認証制度)

- 2005年5月~ 綾の照葉樹林(国・県・町・プロジェクト NGO・市民団体)

2012年7月
ユネスコエコパーク
登録

- 2010年3月 森林セラピー基地 グランドオープン
- 2015年9月 宮崎大学と包括的連携に関する協定締結
- 2016年8月 南九州大学と包括的連携に関する協定締結
- 2017年10月 宮崎国際大学と包括的連携に関する協定締結

2018年4月
綾ユネスコエコパーク
センター オープン

綾町の動き

民間の動き

- 2002年10月~ 「綾の照葉樹林を世界遺産に」署名運動
- 2003年12月 「照葉樹林の回廊構想」が 環境省「NGO・NPO/企業の政策提言」に選出

どうして綾町はユネスコエコパークに登録されたの？

今までの取り組みを活かしながら綾町の未来を官民一体となって創っていきます！

世界遺産の登録には優れた自然環境または文化が残されており、国内法によって適切な保護管理体制がとられていることが必要です。

一方、ユネスコエコパークは、既存の法的保護制度と保全管理計画が整っていること、そして保護されている自然環境を利活用しながら生活する地域住民が、持続可能な経済活動・社会活動を行っていることが求められます。

綾町の人々は、昔から生態系サービスを楽しみながら生活してきました。現在でも、基幹産業である自然生態系農業や工芸、観光などは、生物多様性の保全の上に成り立っており、その姿が認められ、ユネスコエコパークとして登録されたのです。ユネスコエコパークに登録されたことにより、豊かな生態系や生物多様性を守り、自然の恵みを受けながら、文化的・経済的に持続可能な発展を目指す世界のモデル地域として、半世紀にわたるこれまでの取り組みをさらに充実させていくことが求められています。



ユネスコエコパークを活用した理想のまちづくりを目指して！

ユネスコエコパークを活かしたまちづくりを推進するためには、地域住民の積極的な参加が欠かせません。それは、移行地域＝住民が暮らし、持続可能な経済・社会活動を行う地域の発展が重要だからです。

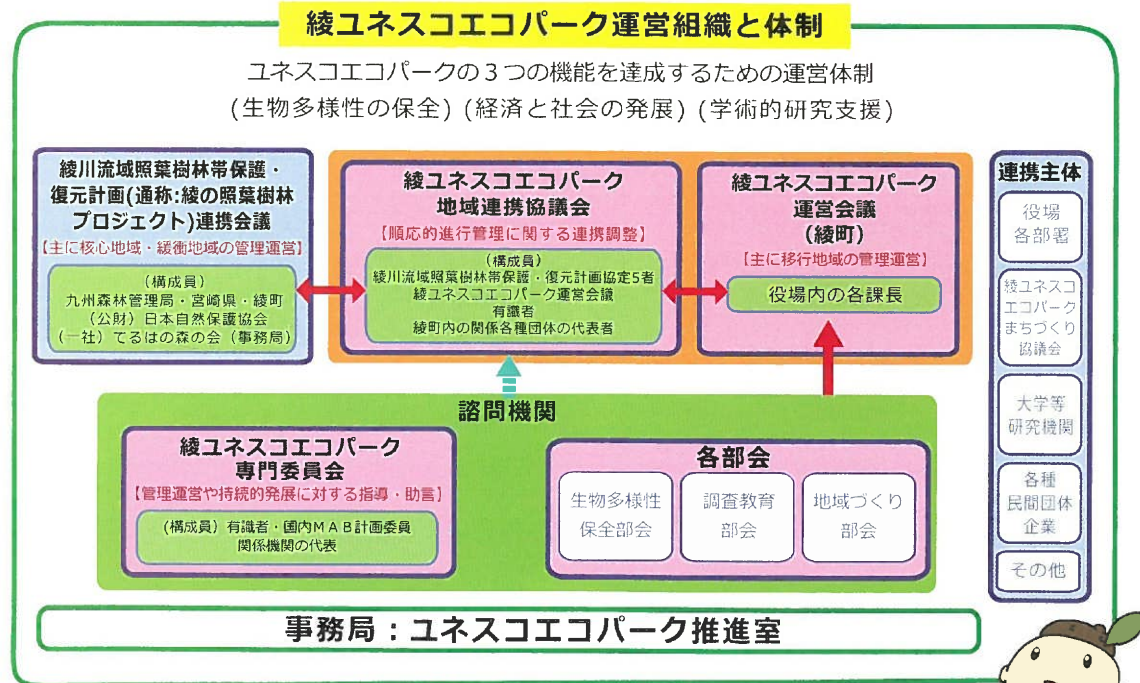
2014年8月に設立された「綾ユネスコエコパークまちづくり協議会」は、地域住民がまちづくりのさまざまなアイデアを積極的に出し合い、実現できるよう取り組んでいく組織です。住民と行政・学術機関・企業が連携しながら、これまでの綾町の取り組みをより充実させたり、自然環境を活かした新たな観光や商品開発、町並み整備によるまちのにぎわいを創出したりすることで、豊かで暮らしやすいまちの実現を目指します。

また、ユネスコエコパーク登録と綾小学校・綾中学校のユネスコスクール認定（2014年）により、その手法やネットワークを利用して、子どもたちは環境や国際理解などについてよりよく学ぶ機会を得られるようになりました。豊かな知識や経験と、健全な心身を育むことができる教育文化都市としても大きな一歩を踏み出したのです。

綾町に住まうすべての人が、まちに誇りを持ち、笑顔で健康に暮らしている様子を想像してみてください。

夢は無限大です！

ひとりひとりができることから始めていきましょう。



綾町の概要

- 位置 宮崎市から北西24km
- 面積 9,519ha ※ うち80%が森林
- 人口 約7,200人
- 指定 九州中央山地国定公園(S57)、日本の自然百選(S58)、森林浴の森百選(S61)、水源の森百選(H7)
- 理念 自然と調和した“豊かで活力に満ちた教育文化都市”
親子三代で楽しい暮らしのできる“まちづくり”を推進し、すべての町民が快適な生活を送り、ロマンと生きがいのある町を建設するため、産・学・住の充実強化に努める。

「学術的研究支援」に関する取り組み



大学との共同研究・野外学習



ユネスコスクールとの連携

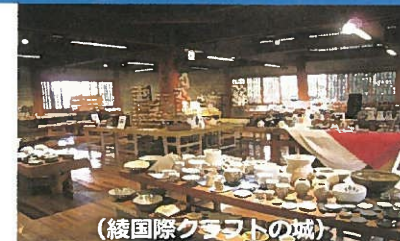


国内外からの視察対応

「経済と社会の発展」に関する取り組み



綾手づくりほんものセンター
自然生態系農業・産業観光



(綾国際クラフトの城)
手づくり工芸



綾ユネスコエコパーク
まちづくり協議会

綾川流域照葉樹林帯・保護復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

2005年5月、九州森林管理局・宮崎県・綾町・（公財）日本自然保護協会・てるはの森の会の5者が協定を取り交わし、日本に残された最後の広大な照葉樹の森を保護・復元していくプロジェクトです。人工林で分断された照葉樹の森を本来の姿に100年かけて復元する官民一体の計画です。

人工林から照葉樹林への復元イメージ



① 人工林

② 抜き伐りにより造林木を減らすことで林内に光を入れ照葉樹の発生を促す。

③ 照葉樹林が十分に育った頃、残るスギ、ヒノキを全て除去し照葉樹林に復元する。

④ 照葉樹林